

1 産地の概要

- ＜対象地域＞ 田原市
- ＜対象品目＞ 大玉トマト
- ＜産地の現状・課題＞

- ・愛知県田原市の冬春トマトの作付け面積は122haで市町村別で全国3位の産地である(平成30年産野菜生産出荷統計)。JA愛知みなみトマト部会の部会員は126名で、栽培面積は48.8haである(平成30年度)。
- ・環境測定装置や統合型の環境制御装置を活用して環境制御を実践している面積は3.1haである。産地では、生産者グループがいち早く環境制御技術を導入し、増収や品質向上に向けた研究会活動を行っている。
- ・トマト栽培ほ場は、施設の軒高によって誘引方法や栽培様式が異なり、また、生産者の収量・品質に対する目標にも違いがある。環境制御技術の導入により、トマトの収量が向上しているが、それぞれのハウスに適した誘引方法や栽培様式、収量目標に対応した環境管理の確立には至っていない。

2 検討体制

- ＜田原大玉トマト活性化協議会構成員と役割＞
- ・生産者グループ「愛知ビッグトマト」(役割: 年間の栽培管理指標に基づく栽培管理、革新計画の策定)
- ・愛知みなみ農業協同組合(役割: 事務局、検討会の開催、革新計画の策定)
- ・愛知県東三河農林水産事務所田原農業改良普及課(役割: 栽培指導、実証計画の分析、革新計画の策定)



生育状況の確認



視察調査の様子

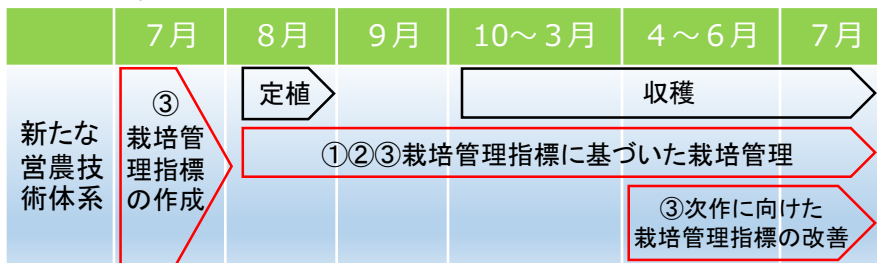
3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

環境測定データ及び生育調査に基づき作成される年間の栽培管理指標を活用し、各生産者ごとの収量・品質目標に応じた作付け計画及び時期別の栽培管理、環境管理を実践し、目標を達成をめざす。



- ①炭酸ガス施用機導入
- ②環境測定装置導入
- ③栽培管理指標の導入



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

【現状】9.7t/10a → 12.3t/10a※ **約3割↑** ※R2年3月中旬時点
栽培管理指標に基づいた栽培管理の実施で昨年より増収し、目標収量を達成する見込み

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R2	R3	R4
愛知県東三河農林水産事務所 田原農業改良普及課	新規導入者への栽培管理指標作成支援、技術支援		
愛知みなみ農業協同組合	栽培管理指標に基づく栽培指導、勉強会の開催		
愛知ビッグトマト	栽培管理指標に基づく栽培管理、管理の改善		